

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究科
附属看護実践研究指導センター

Center for Education and Research
in Nursing Practice,
Graduate School of Nursing,
Chiba University

——教育・研究・実践をつなぐ——

2020-2021



CHIBA
UNIVERSITY

ご挨拶



千葉大学大学院看護学研究科
附属看護実践研究指導センター長

わづみよしこ
和住淑子

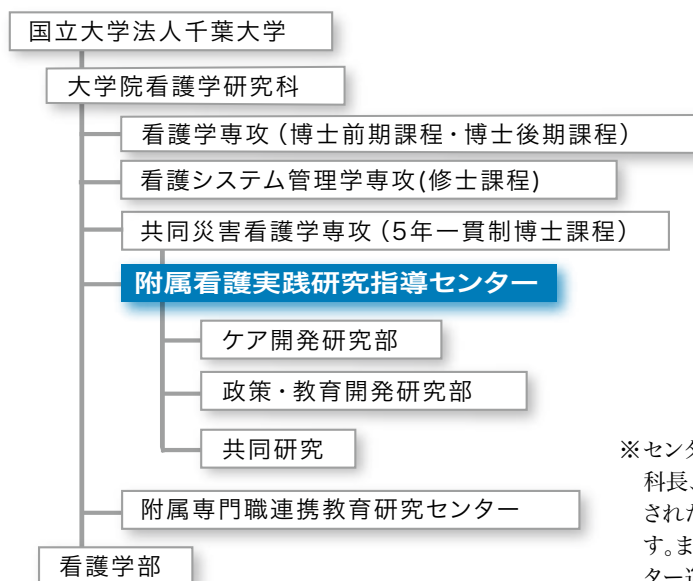
当センターは、1982年（昭和57年）4月、調査研究、専門的研修等を行うとともに、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者の利用に供することを目的として、国立大学唯一の看護学部を有する千葉大学に設置されました。設置以来30年以上にわたり、全国の看護系大学への支援および看護実践者を対象とした生涯学習支援を通して、看護の向上に向けた事業を行ってきました。こうした実績をもとに、2010年（平成22年）3月、文部科学大臣より看護学分野唯一の「看護学教育研究共同利用拠点」として認定されました。

以降、全国の看護系大学の教員、臨地実習を担当する国公私立大学病院等の医療施設の看護職を対象とした、各種研修事業、文部科学省からの補助を受けた各種大型プロジェクトに取り組み、成果を上げてきました。

そして、2021年4月より、時代の変化に即してこれまでの知識提供型の研修事業の在り方を大きく転換し、「利用者相互のピア・コンサルテーション」を軸に、新事業を展開してまいります。この新事業は、「“Society5.0看護”創出拠点ーピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略ー」という名称で進めていくことにしております。併せて、新事業の核となる理念に即して、名称も、「看護実践・教育・研究共創センター」へと変更します。

当センターは、教育・研究・実践の良循環を通して、山積する社会的課題の解決に看護学の立場から貢献し、すべての国民が自らの力を発揮して健康で幸せな生活を営むことができるよう、今後も活動を続けてまいります。この目的に向かって皆様と共創できることを心から楽しみにしております。

組織



※センターの事業計画と重要事項を審議するため、研究科長、センター長、外部の学識経験者等の委員で構成された「センター運営協議会」を年に1回開催しています。また、事業計画と予算、管理運営を審議する「センター運営委員会」を毎月開催しています。

スタッフ

研究科長 中村 伸枝
センター長 和住 淑子

ケア開発研究部
教授 野地 有子
准教授 黒田 久美子

政策・教育開発研究部
教授 和住 淑子
准教授 銭 淑君

講師 高木 夏恵

看護システム管理学専攻
病院看護システム管理学領域
教授 手島 恵

地域看護システム管理学領域
准教授 杉田 由加里
講師 飯野 理恵

ケア施設看護システム管理学領域
教授 酒井 郁子

当センターの設置概要

1) 1982 (昭和57) 年4月1日 全国共同利用施設として設置

看護学が独自の教育研究分野を確立しつつあった昭和50年代半ば、高齢社会の進展、医療資源の効率的運用等の実践的課題に対応する研究、指導体制の確立がせまられていた。そのような背景のもと、千葉大学看護学部にて全国共同利用施設として、附属看護実践研究指導センターが設置された。看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者、看護職員の指導的立場にある者の利用に供することを目的として、共同研究、専門的研修等が実施されてきた。

2) 研究部の構成

設置当初は、継続看護研究部、老人看護研究部、看護管理研究部の3研究部から構成されていたが、より柔軟で時代に即した活動が展開できるよう、2007 (平成19) 年4月から、政策・教育開発研究部、ケア開発研究部の2部構成となり、現在に至る。

3) 2009 (平成21) 年 研究科附属へ

看護学研究科の部局化に伴い、附属看護実践研究指導センターも研究科附属となった。

4) 看護学教育研究共同利用拠点の認定

2010 (平成22) 年度に文部科学大臣より、教育関係共同利用拠点*として認定され、「看護学教育研究共同利用拠点」として活動している。2015 (平成27) 年度に再認定、2019 (令和元) 年度に再々認定され、第3期の活動中である。看護学分野では唯一の拠点である。

当センターの目的

社会が期待する看護の価値の創造に向けて、実践－教育－研究をつなぎ、全国の看護系大学および地域の関連施設の機能の充実・発展をめざす

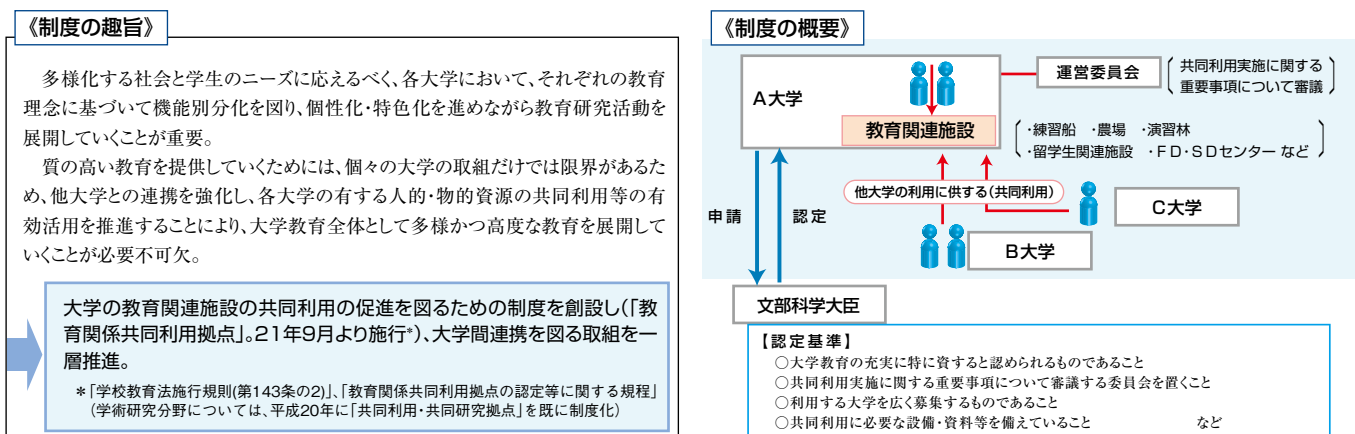
当センターの活動基本方針

- 1) 各看護系大学、関係機関等の自律的な活動を支援する
- 2) 大学間、利用者間の相互支援を重視する。
- 3) 看護学教育の質保証のためのFD支援、SD支援を実施する。
- 4) 当センターと利用者の双方向の良循環をつくり、活動を推進する（利用者は最先端の情報や課題を持ち寄り、当センターは必要なニーズを把握、事業の企画と運営を行い、利用者が参画する）。

「看護学教育研究共同利用拠点」とは

平成30年9月、全国で63施設が文部科学大臣より「教育関係共同利用拠点」として認定されています。「看護学教育研究共同利用拠点」はそのうちのひとつであり、かつ、看護学分野としては唯一の拠点です。教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことが重要であることから、平成21年9月に文部科学大臣によって創設されました。本制度の概要は以下のとおりです。

*教育関係共同利用拠点制度



事業概要

1. “Society5.0 看護” 創出拠点-ピア・コンサルテーションを通して共創する人間中心の健康支援方略-: 2020-2024 年度
2. 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業：2018-2021 年度
(調査テーマ: 学士課程における看護学教育の質保証に関する調査・研究)
3. FD 支援
 - 1) 看護学教育ワークショップ
 - 2) 看護系大学FD企画者研修
 - 3) 看護系大学への個別支援
4. SD 支援
 - 1) 国公立大学病院副看護部長研修
 - 2) 看護学教育指導者研修
 - 3) 看護管理者研修
5. 共同研究
6. 情報発信・ネットワーク化

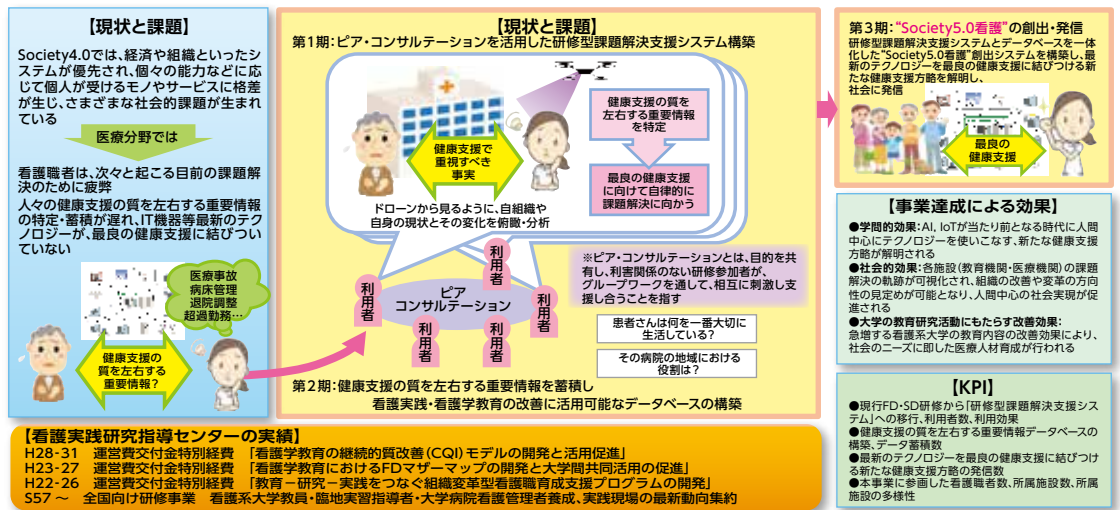
以上の6つの事業を中心に、その他必要な事業を展開しています。CQIモデル開発と活用推進プロジェクトや共同研究等の成果をFD支援、SD支援、個別支援で活用しています。

2020年度 事業

1. “Society5.0看護” 創出拠点-ピア・コンサルテーションを通して共創する人間中心の健康支援方略-

目的 医療分野におけるSociety5.0の実現に向け、最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける健康支援方略＝“Society5.0看護”を創出・発信する。

プロジェクトの全体図



事業進捗と計画

年度	R2(2020)年度	R3(2021)年度	R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度	
事業フェーズ	第1期 研修型課題解決支援システム構築フェーズ		第2期 データベース構築フェーズ		第3期 “Society5.0看護” 創出フェーズ	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●現行FD・SD事業の実施 ●専門家会議による現行FD・SD事業の評価・分析 ●ピア・コンサルテーションを活用した研修型課題解決支援システム試案の作成 ●システム仕様書の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ●研修型課題解決支援システム試案に基づきFD・SD事業の実施 ●専門家会議による評価・分析 ●研修型課題解決支援システム試案の修正 ●策定したシステム仕様書の修正 	<ul style="list-style-type: none"> ●研修型課題解決支援システムに基づきFD・SD事業の実施 ●専門家会議による評価・分析 ●必要に応じ、研修型課題解決支援システムの修正 	<ul style="list-style-type: none"> ●専門家会議による研修参加者の課題解決プロセスにおいて特定された、重要情報の評価・分析 ●データベース試案の作成 ●データベース仕様書の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ●データベース試案に基づき、重要情報の収集・評価・分析 ●データベース試案の修正 ●策定したデータベース仕様書の修正 	<ul style="list-style-type: none"> ●研修型課題解決支援システムとデータベースを一体化し、“Society5.0看護”創出システムを構築し、運用を開始
“Society5.0看護”創出・発信	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決プロセスの個別分析により、IT機器等最新のテクノロジーが、最良の健康支援に結びついていない現状の構造分析 ●課題解決プロセスの個別分析により、最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける健康支援方略の分析 		<ul style="list-style-type: none"> ●最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける健康支援方略の解明、発信 			
事業評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ●現行FD・SD研修から「研修型課題解決支援システム」への移行 ●「研修型課題解決支援システム」利用者数、利用効果(健康支援の質を左右する重要情報を特定し、最良の健康支援に向けて自律的に課題解決できたかを測定) 		<ul style="list-style-type: none"> ●データベースの構築 ●蓄積データ数 		<ul style="list-style-type: none"> ●“Society5.0看護”創出システムの構築 ●最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける健康支援方略に関する論文等の発信数 	

2.大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業 (学士課程における看護学教育の質保証に関する調査・研究)

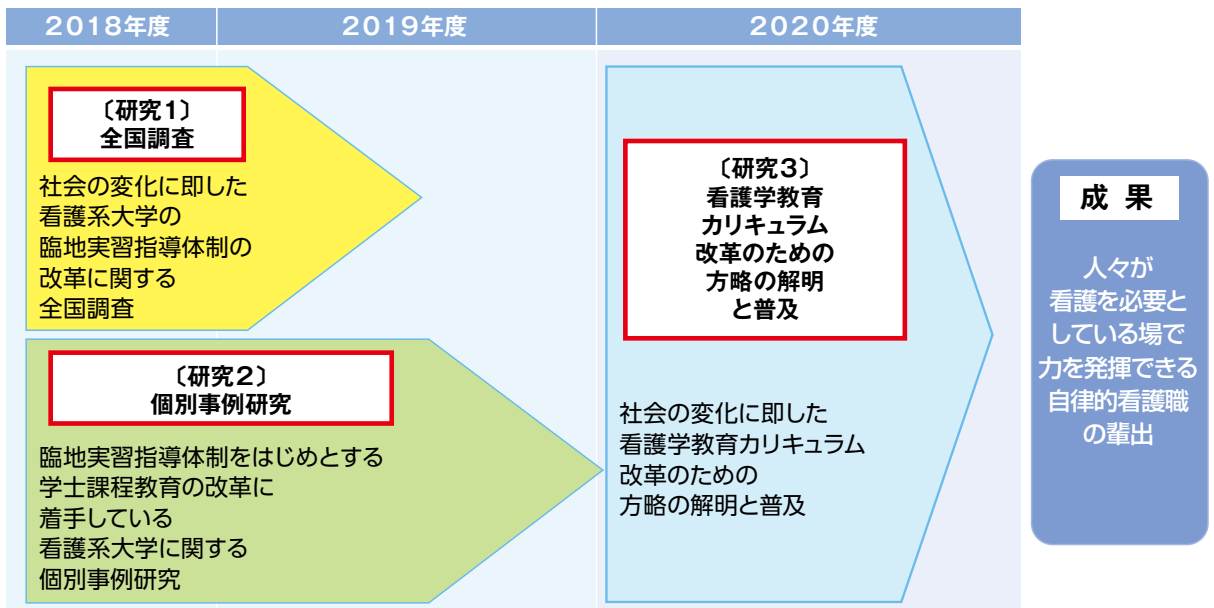
本事業は、2018年度～3年間の計画で当センターが受託した、文部科学省の調査研究委託事業である。

1)事業目的

看護系大学が、社会の変化に即して、臨地実習指導体制をはじめとする学士課程カリキュラムを改革し、その改革に基づいて教育を展開し評価する体制を、自大学の内部に構築する方略を解明し、それを成果物として公表するとともに、看護学教育ワークショップ開催等の効果的な普及方略を考案して、全国の看護系大学に普及する。

2)事業計画

本調査研究は、研究1～3の3つの研究で構成する。3年間の取り組みの全体像を以下の図に示す。



図：本調査研究委託事業における3年間の取り組みの全体像

3)実施体制

本調査研究は、当センターが中心となり、地域特性や設置主体、附属病院の有無等の実習環境をはじめとする教育の諸条件の類型が異なり、各地域の役割期待に貢献してきた看護系5大学と共同で実施する。このような実施体制により、全国の看護系大学の教育環境の類型の多様性に対応した成果をめざす。

3.FD支援

看護学教育ワークショップ

- 対象:**全国の看護系大学の教員、大学院生(ワークの部分は原則准教授以上)
- 目的:**全国の看護系大学が直面する課題等を取りあげ、自大学における自律的な教育の質改善への示唆を得る
- 期間:**令和2年10月21日(水)～11月10日(火)
- 内容:**講演・ワーク

看護系大学FD企画者研修→開催中止

- 対象:**看護系大学におけるFD企画者 原則として1大学2名1組、20組(40名)程度
- 目的:**組織分析をもとに自大学の状況に即して系統的なFDを企画・実施・評価する能力を習得
- 期間:**令和2年7月5日(日):講義・グループ討議
令和2年7月～令和3年3月:個別相談・検討、受講者相互の大学訪問
令和3年3月:成果報告会・取り組みの評価

看護系大学への個別支援

- ・FDマザーマップ®活用支援
- ・FDコンサルテーション
- ・各看護系大学から要請されるCQI支援

4.SD支援

国公私立大学病院副看護部長研修→開催中止

- 対象:** 大学病院の上級看護管理者 20名
目的: 社会的要請に即した医療の充実に向けて、組織変革を計画・実施・評価する能力を獲得する
期間: I 令和2年6月2日(火)～5日(金):講義
II 令和2年9月8日(火)～11日(金):演習・グループ討議
III 令和2年3月2日(月)～3日(火):報告会

看護学教育指導者研修→開催中止

- 対象:** 看護学生を直接指導する臨地実習施設の看護職 50名
目的: 看護系大学と連携して社会の変化に即した看護学教育を行うための知識・スキルを学ぶ
期間: 令和2年9月28日(水)～30日(金)
内容: 講義・演習

看護管理者研修→開催中止

- 対象:** 急性期病院の看護管理者(看護師長相当) 100名
目的: 医療提供体制の変化に即した組織的課題を解決する能力を開発し、看護本来の役割発揮を支援する
期間: 令和2年9月23日(水)～25日(金)
内容: 講義・演習

5.共同研究

FDプログラム開発研究 (FD)、SDプログラム開発研究 (SD)、SEEDS開発研究 (SEEDS) の3類型を位置付けて運営している。以下は2020年度の共同研究のテーマです。

- 研究1. 教員としての教育観とその背景にある組織のあり方を考える看護学教員向けFDコンテンツの開発と評価(FD)
- 研究2. 看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究(FD / SD)
- 研究3. 公的病院におけるELNEC教育プログラムの構築(SD)
- 研究4. FDコンテンツ開発(国際)－10～20年度を見据えたグローバル人材育成と国際交流推進(FD)
- 研究5. 組織の現状を踏まえた研修企画を支援する方法の開発(FD / SD)

6. 情報発信・ネットワーク化



<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

○FDマザーマップ®Ver.3及び支援データベース

看護系大学教員に必要な能力のうち、特に看護に特化した能力を網羅的に示したもので、「基盤」「教育」「研究」「社会貢献」「運営」の要素からなります。組織としてFDの課題を見出す、体系的なFDに向けて整理する、個人の能力を各自が評価するためにも使えます。

使用してもらいながら、見直しを行い、現在、Ver.3を掲載しています。日本語版に加え、英語版、中国語版も作成しています。

FDマザーマップ®の特徴やさまざまな活用方法、FDコンテンツ、FD実績表を掲載しています。

FD実績表は、登録している看護系大学が実際に行ったFDの実績の記録を掲載しています。公開されている他大学のFDの企画は、自大学のFD企画のヒントになります。



各種コンテンツ・データベース



当センターで実施した事業成果である各種コンテンツをホームページからダウンロードできるようにしています。

ご活用いただき、活用の成果をセンターと共有させていただきたいと考えています。

○FDコンテンツ

FD研修に活用できるコンテンツを各種掲載しています。看護学教育指導者研修での講義の動画もダウンロード可能です。



○組織変革型支援育成データベース

国公立大学病院副看護部長研修における参加者の実施したプロジェクト実践報告書をデータベース化し、公開しています。この実践報告書は、執筆者の承諾を得て公開しており、多様な取り組みを検索することができます。



定期刊行物

- ・看護実践研究指導センター年報（昭和57年度ー）
- ・看護学教育ワークショップ報告書（平成19年度ー）
- ・千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター（センターパンフレット）平成23年度ー
- ・ニュースレター（平成23年度ー）



報告書

- ・文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究受託事業 学士過程における看護学教育の質保証に関する調査・研究（平成30年ー令和2年度）最終報告書、令和3年3月

拠点インフォメーションメール

拠点インフォメーションメールは、拠点からの情報発信力を高め、拠点をご活用いただく方々、機関との連携・共同をさらにすすめるためのものです。旧メーリングリストを発展させ簡単な登録としました。郵送とホームページからの発信に加え、当センターからの各種の情報提供を実施しておりますので、是非ご登録ください。

拠点インフォメーションメール 登録方法

申込先：kango-CQI@chiba-u.jp
件名：（〇〇大学）拠点インフォメーションメール登録申し込み
必須記載事項：担当窓口部署、窓口担当者名

個人情報の取り扱い方については、HPをご参照下さい。

<https://www.n.chiba-u.jp/center/network/mailing.html>

事業実績

平成22年度～令和元年度の拠点利用実績

(単位:人)

北海道・東北ブロック

看護学教育指導者研修	49	FD企画者研修	2
看護学教育ワークショップ	80	FD支援データベース登録	4
国公立大学病院副看護部長研修	25	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	7
看護管理者研修	88		

関東ブロック

看護学教育指導者研修	133	FD企画者研修	12
看護学教育ワークショップ	164	FD支援データベース登録	13
国公立大学病院副看護部長研修	70	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	12
看護管理者研修	370		

中部ブロック

看護学教育指導者研修	58	FD企画者研修	2
看護学教育ワークショップ	112	FD支援データベース登録	5
国公立大学病院副看護部長研修	48	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	15
看護管理者研修	119		

関西ブロック

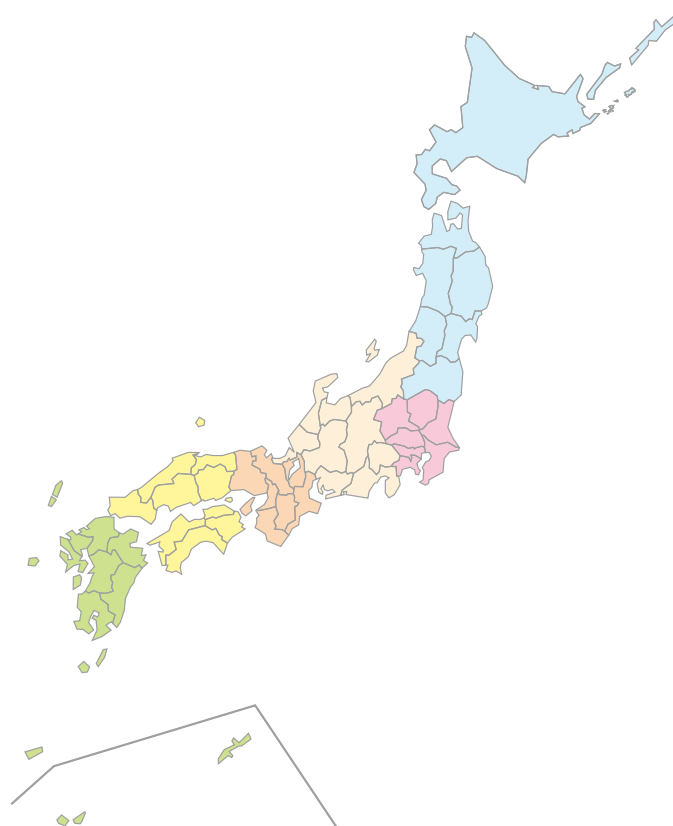
看護学教育指導者研修	38	FD企画者研修	6
看護学教育ワークショップ	88	FD支援データベース登録	7
国公立大学病院副看護部長研修	23	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	6
看護管理者研修	106		

中国・四国ブロック

看護学教育指導者研修	43	FD企画者研修	4
看護学教育ワークショップ	104	FD支援データベース登録	9
国公立大学病院副看護部長研修	27	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	8
看護管理者研修	91		

九州・沖縄ブロック

看護学教育指導者研修	47	FD企画者研修	4
看護学教育ワークショップ	81	FD支援データベース登録	5
国公立大学病院副看護部長研修	36	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	6
看護管理者研修	128		



年度別事業別の利用者数(単位:人)

年度別事業別の受講者数(単位:人)

令和2年 2月20日現在

事業名 年度	センター 共同研究	センター プロジェクト研究	センター 研 修	センター テーマ別 研究研修	看護婦学 校看護教 員講習会	認定看 護師教 育課程	国公立 大学病院 副看護部 長 研 修	看護学教 育指導者 研 修	看護学教育 指導者研修 (ベーシック コース)	看護学教育 指導者研修 (アドバンス コース)注2	国公立 大学病院 看護管理 者 研 修	看護管理者 研修(ベーシ ックコース) 注 1	看護管理者 研修(アドバ ンスコース) 注 2	FD企画 者 研 修	看護学教育 ワークショップ (全日程)	計
昭和57年度	8		12								67					87
昭和58年度	14		8								79					101
昭和59年度	17		8								73					98
昭和60年度	21		10		38						74					143
昭和61年度	22		13		36						70					141
昭和62年度	24		14		38						76					152
昭和63年度	23		20		39						74					156
平成元年度	29		15		40						72					156
平成2年度	28		15		36						76					155
平成3年度	29		15		39						72					155
平成4年度	23		18		39						72					152
平成5年度	28		18		43						75					164
平成6年度	24		19		40						72					155
平成7年度	20		17		38						80					155
平成8年度	17		24		40						79					160
平成9年度	12		22		40						81					155
平成10年度	13		15		32						78					138
平成11年度	14		18		31						78				62	203
平成12年度		16		18				22			74				81	211
平成13年度		22		18				20			76				93	229
平成14年度		20		0				24			79				82	205
平成15年度		21		16				13			73				79	202
平成16年度		27		16				18			86				91	238
平成17年度		29		12		21		12			79				89	242
平成18年度		21		9		30	21	14			81				87	263
平成19年度		6				30	25	22			80				112	275
平成20年度		12				30	28	19			83				84	256
平成21年度		14				27	32	16			77				84	250
平成22年度	6	9				27	30	19			88				79	258
平成23年度	11	7				26	18	22			79				82	245
平成24年度	12	8				26	25	20			75				53	219
平成25年度	24	21				23	23	38			80				58	267
平成26年度	21	17				25	22	51			88				53	277
平成27年度		29				24	29	44	(2)		95	(3)			64	290
平成28年度		41				24	22	52	(1)		105	(3)			70	318
平成29年度	28						20	39			98			10	67	262
平成30年度	35						20	38			103			10	57	263
令和元年度 (2019年度)	36						20	45			91			10	46	248
計	539	320	281	89	569	313	335	286	262	3	2,469	569	6	30	1,573	7,644

注1:看護管理者研修(ベーシックコース)の平成25年度、平成26年度は国公立大学病院看護管理者研修(ベーシックコース)として開講
 注2:看護学教育指導者研修(アドバンスコース)及び看護管理者研修(アドバンスコース)の受講者数はプロジェクト研究として募集し、それぞれのアドバンスコースとして位置付けているためプロジェクト研究受講者数のうち、当該研修の受講者数を再掲として()で示す。
 その他:平成29年度看護管理者研修:受講者の都合による未修了者2名含む。
 :2019(令和元)年度副看護部長研修:受講者の都合による未修了者2名含む。
 :2019(令和元)年度FD企画者研修:受講者の都合による未修了者1名含む。

Director's Message

"Center for Education and Research in Nursing Practice of the Graduate School of Nursing of Chiba University"

The Center was established in April 1982 at Chiba University, the only national university with a nursing faculty, to conduct research, provide specialized training, and be available for use by faculty members of nursing universities and others engaged in research and study in the field of nursing. For more than 30 years since its establishment, the Center has been engaged in projects aimed at improving nursing through support for nursing universities nationwide and lifelong learning for nurse practitioners. Based on these achievements, in March 2010, the University was recognized by the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology as the only "Joint Usage Center for Nursing Education and Research" in the field of nursing science.

From April 2021, in response to the changing times, we will make a major shift in the way we have conducted our knowledge-based training program and develop a new program based on peer consultation among users. This new project will be called the "Society 5.0 Nursing" Creation Center - a human-centered health support strategy co-created through peer consultation. At the same time, the name of the center will be changed to the "Collaborative Center for Development of Nursing Practice, Education and Research" in line with the core philosophy of the new project.

Through a virtuous cycle of education, research, and practice, the Center will continue to contribute to the solution of the mountain of social issues from the standpoint of nursing science, and to enable all citizens to lead healthy and happy lives by exercising their own abilities. We sincerely look forward to co-creating with you toward this goal.

Project Overview

1. "Society 5.0 Nursing" Creation Center - a human-centered health support strategy co-created through peer consultation: FY 2020-2024
2. Commissioned project for research and study on how to train health care professionals at universities: FY 2018-2020 (Research theme: Research on Quality Assurance of Nursing Education in Bachelor Degree Programs)
3. Faculty Development Support
 - 1) Nursing education workshop
 - 2) Training for nursing school Faculty Development planners
 - 3) Individual support for nursing schools
4. Staff Development Support
 - 1) Training for deputy nursing directors of national and public university hospitals
 - 2) Training for nursing education instructor
 - 3) Training for nursing managers
5. Joint Research
6. Information dissemination and networking

The results of the Continuous Quality Improvement (CQI) model development and utilization promotion project and joint research are used for FD, SD, and individual support.

Faculty

Dean Nobue Nakamura, RN, PHN, Ph.D
Director of the Center Yoshiko Wazumi, RN, PHN, Ph.D

Nursing Care Development & Evaluation
Professor Ariko Noji, RN, PHN, MHS, Ph.D
Associate Professor Kumiko Kuroda, RN, PHN, Ph.D

Nursing Policy and Education Development
Professor Yoshiko Wazumi, RN, PHN, Ph.D
Associate Professor Shu-Chun Chien, RN, PHN, Ph.D

Associate Professor Natsue Takagi, RN, MSN

Nursing Systems Management
Hospital Nursing Systems Management
Professor Megumi Teshima, RN, MSN

Community Nursing Systems Management
Associate Professor Yukari Sugita, RN, PHN, Ph.D
Associate Professor Rie Iino, RN, PHN, Ph.D

Long Term Care Facilities Nursing Systems Management
Professor Ikuko Sakai, RN, PHN, MHS, Ph.D

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究科 附属看護実践研究指導センター

**Center for Education and Research
in Nursing Practice,
Graduate School of Nursing,
Chiba University**



研究成果は、当センターのホームページで報告しています。

センターURL

<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

報告書を送付することもできます。

センターメール:

nursing-practice@office.chiba-u.jp

〒260-8672

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学亥鼻地区事務部総務課総務第三係

TEL 043-226-2377・2464

URL <https://www.n.chiba-u.jp/center/>

[亥鼻キャンパスへのアクセス]

JR総武線千葉駅下車

東口7番バス乗り場より「千葉大学病院行き」

または「南矢作行き」のバスに乗車し、

「千葉大医学部入口」下車



印刷には大豆油インキを使用しています